

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2015年度 第4回

報告題名 (title) : 宮城県のカキ流通の特徴とその要因に関する一考察	
報告者 (name) 武居 史弥	日時 10月8日 午後3時～
所属分野 (labo) 農業経営経済学分野	場所 第9講義室
座長 青木 雄太	議事録担当者 西田 陽平
出席者 木谷、小山田、盛田、米澤、冬木、伊藤、カライ、ユニクロス、西田、金、黒岩、秀、武居、Tian、千葉、佐藤、石塚、チリゲル、ソリゴガ、唐、吉田、趙、李	
報告要旨 (Abstract) カキ養殖において宮城県は約300年の歴史を持つ伝統的産地である。2010年の生産量は41,653トンであり、国内総生産量に占める割合は20.8%と広島県に次いで第2位の地位にある。東日本大震災により宮城県の水産業関係は壊滅的な打撃を被り、そのなかでもカキ養殖は震災前に比べ、生産量、国内総生産量に占める割合ともに半減（2014年時点）とその影響が顕著である。本報告では、まず宮城県のカキ養殖の生産・流通・消費の特徴について政府統計資料をもとに整理する。そして、宮城県のカキ流通の最大の特徴である漁協によるほぼ全面共販について、その規定要因を明らかにしたい。そして、今後のカキ流通の在り方について方向性を示すことが目的である。	

質疑・応答(Q & A)

米澤：震災による湾内の環境の変化というのは養殖にとって良いか悪いかというのは調べているのか。

武居：調べていないが、ニュースではいい影響があると聞いている。

米澤：それには技術の改良なども考えられるが、海洋の先生などには養殖を専門とされている人がいてそちらの技術などと経営の情報を合わせればいいデータとなるのでは。

武居：海洋系の片山先生には話を聞いており、漁協などにも聞いていきたい。

小山田：震災前後で経営体数の変化やカキ処理場の復旧率は南部だけ高いがそもそも被害が違うので復旧率が違うのではないか。

武居：調べていないが、北部ではそもそも浜から人が離れているので復旧ができていないのではないかと考えられる。

小山田：比較したら面白いのでは。経営が再開できたのは南部ではコミュニティが残っているからなど違いが出たら面白い。

盛田：スライド 19 で広島の調整衰退期とあるが、生産量増大とも書いてある。全国的にも生産量が低下しており、矛盾しているのではないか。

武居：広島のシェアが高いので、全国の生産量と関連している。

盛田：生産量が減少している。

武居：前の成長期で生産量が増加した結果、単価が低下して経営が悪化したため、生産量が減少したと考えられる。

盛田：スライド 28 での価格を見ると、価格はその時期に回復し始めている。もう一度見直したほうがいい。